

里山の自然 守り続け

平瀬川流域 まちづくり協 総務大臣賞を報告

川を生かしたまちづくりを行って、平瀬川流域まちづくり協議会の黒沢一之会長らメンバー8人が4



平瀬川流域まちづくり協議会と飛森谷戸の自然を守る会のメンバーら

日、川崎市役所を訪れ、ふるさとづくり大賞総務大臣賞とかながわ地球環境賞の受賞を福田紀彦市長に報告した。生田緑地南側・初山地区で活動している「飛森谷戸の自然を守る会」の高木一弘事務局長も同席し、同守る会の同環境賞の報告も行われた。

福田市長は「長年、古里づくりに貢献し、里山を残していたいただき感謝している。ぜひ、こうした自然を次の世代に残してほしい」とたたえた。同協議会の松井隆一事務局長らは「日常の中でバードウォッチングなどができることが大切。

流域の3中学6小学校とも連携しながら、今後も地域の自然を守っていききたい」と話していた。

同協議会は、1993年9月に宮前区を中心に地域住民で組織され、アユの放流や川の清掃など自然回復の取り組みや、桜の植樹、

まちかど

人に優しいメディアを

ソフト・システム開発のアルファメディア(中原区小杉町)は創立25年目を迎え、3日夜開かれた第26期事業計画説明会に行政や業界関連の約60人が駆けつけ祝った。

同社は1992年3月に設立され、世界初の日本手話電子辞書「ムサシ」を開発し、神奈川工業技術開発大賞を受賞。現在でも障害者向け職業訓練や視覚障害者向け歩行支援システムの開発などを行っている。

小中学生の環境学習への協力などを行ってきた。同守る会は96年に発足し、生田緑地にある同谷戸の環境保全や生物多様性維持の活動を行い、ホタルが舞うほど豊かな自然が残されている。

(滝村 誠)

た売上約6億5700万円は過去最高だったが、増収減益だった。自社製品の強化、営業力の強化などを重点的に行い、今後も人に優しいマルチメディアを創造していきたい」と話していた。写真。

動向

4日

福田川崎市長【午前】▽市議会予算審査特別委員会に向けた勉強会▽砂田副市長▽総務局▽小林環境局長▽木場田文夫・川崎アゼリア代表取締役社長ら▽井本昇・警川崎市警察部長▽三浦副市長▽菊地副市長【午後】▽京浜港にお